

## 家庭礼拝ガイド 365日－2月

日付	聖書箇所	中心聖句	テーマ
2/1	Iテサロニク 4:9～18	Iテサロニク 4:13	キリスト者の死
2/2	Iテサロニク 5:16～18	Iテサロニク 5:16～18	いつも喜び、絶えず祈り、すべて感謝
2/3	Iテモテ 2:1-2	Iテモテ 2:1	王のために祈りなさい
2/4	Iテモテ 2:4	Iテモテ 2:4	全ての人が救われることを望んで
2/5	Iテモテ 4:4	Iテモテ 4:4	捨てるべきものは一つもない
2/6	Iテモテ 4:12	Iテモテ 4:12	信者の模範となりなさい
2/7	Iテモテ 5:4～8	Iテモテ 5:8	家族の面倒をみる
2/8	Iテモテ 6:9～10	Iテモテ 6:10	信仰から迷い出る危険
2/9	Iテモテ 6:17～19	Iテモテ 6:18	分かち合う知恵
2/10	IIテモテ 1:1～2	IIテモテ 1:2	信仰の継承
2/11	IIテモテ 3:16	IIテモテ 3:16	聖書は神の靈感による
2/12	IIテモテ 4:2	IIテモテ 4:2	時が良くても悪くても
2/13	テトス 2:14	テトス 2:14	私たちをきよめるために
2/14	ピレモン 11	ピレモン 11	役に立つもの
2/15	ヘブル 3:1	ヘブル 3:1	イエスのことを考えなさい
2/16	ヘブル 4:12	ヘブル 4:12	神の言葉は両刃の剣よりも鋭い
2/17	ヘブル 4:15-16	ヘブル 4:16	神に近づこう
2/18	ヘブル 7:25	ヘブル 7:25	キリストは生きていて、とりなして
2/19	ヘブル 9:27	ヘブル 9:27	人は一度死ぬことと、死後の裁きが
2/20	ヘブル 10:19～25	ヘブル 10:22	大胆にみ座に
2/21	ヘブル 11:1	ヘブル 11:1	目に見えないものを確信させる信仰
2/22	ヘブル 11:6	ヘブル 11:6	信仰がなくては神に喜ばれない
2/23	ヘブル 11:13	ヘブル 11:13	地上では旅人
2/24	ヘブル 11:13～16	ヘブル 11:16	本当の故郷
2/25	ヘブル 12:2	ヘブル 12:2	キリストから目を離さないで
2/26	ヤコブ 1:1～4	ヤコブ 1:4	試練に勝つ人となる
2/27	ヤコブ 1:5～8	ヤコブ 1:6	疑わずにお祈りしましょう
2/28	ヤコブ 1:9～11	ヤコブ 1:10	すべてが主のもの

2月1日

テーマ：「キリスト者の死」

聖書箇所：テサロニケ人への手紙第一 4章9節～18節

◆今日のみことば

眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。

テサロニケ人への手紙第一 4章13節

◆メッセージ

昨年、世界の人口は約73億人でした。世界中で1年に1億3千万人が生まれましたが、6千万人が亡くなりました。日本の人口は1億2756万人でした。毎日2935人が生まれましたが、それより多く、3279人が亡くなっています。これは人は生まれる時があれば、その後、死によってこの世を去る時も必ず来る事をよく表しています。

聖書に「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている（ヘブル9：27）」と書かれています。すでに愛する人を先に送り出した人もいるでしょう。限られている一度の人生の中で、キリストを信じていない人は死で全てが終わってしまうと思いこみ、死に対する恐れや不安を持ちます。それで、死は自分と関係ない、他の人の話のように避けたり、考えるのを嫌がったりします。みなさんはいかがですか。



今日の本文は、使徒パウロがテサロニケにいるクリスチャンたちに、キリストの復活の約束によって慰めを語った箇所です。テサロニケのクリスチャンたちの中には、殉教した人たちが何人もいました。「イエスさまなんか知らない、関係ないと言えば殺さない。」と脅されても、イエスさまを信じ続けて殺された兄弟姉妹のことを思うと、悲しい思いでいっぱいでした。聖書は、キリスト者の死に対して「眠った、眠っている(13・14節・マタイ9:24)」とよく書かれています。イエス・キリスト

が再び来られる時、すべてのキリスト者はイエス・キリストのようによみがえり、栄光の主と共に神の国で永遠に生きる事になるからです。私たちにもこの大きな望みと希望によって慰め合い、励まし合うように勧められています。今日も分かれと涙があるこの世で、イエス・キリストにある変らないこの生ける望みを抱き、今も生きておられ共におられる主と共に歩む私たちの家族となりましょう。



◆お祈り

「愛する父なる神さま！今日も涙もあり、分かれもあるこの世の中で、イエスさまを信じる私たちに与えてくださる、この生ける望みをちゃんと握って、復活の主と共に歩む一日となるように導いてください。」

(クリスチャンプレイズチャーチ牧師 鄭南哲)

2月2日

テーマ：「いつも喜び、絶えず祈り、すべて感謝」

聖書箇所：テサロニケ人への手紙第一 5章16節～18節

◆今日のみことば

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

テサロニケ人への手紙第一 5章16～18節

◆メッセージ

お家でも学校でも毎日楽しいことばかりだと、しあわせかもしれません。でも、いやなことや苦しいこと、大変なこともありますね。お友だちとなかよくできなかつたり、けんかしたり、いじめにあうこともあるかもしれません。苦しいことをだれにも言えなくて、ひとりで泣いてしまうこともあるかもしれません。なんで自分にばかりいやなことがあるんだろうと、楽しそうにしているお友だちを見るとうらやましくなったり、お友だちがきれいになつたりすることがあるかもしれませんね。神さまを信じているのに、なんでなんだろうと泣きたくなるかもしれません。パウロさんも同じような経験をしたのです。イエスさまのことをいっしょうけんめい伝えているとき、いやなことを言われたり、石をなげつけられたりしました。それでもパウロさんはいつも神さまに祈り、よろこんでイエスさまのことを伝えつづけてきました。なぜでしょう。



パウロさんは、わたしたちがイエスさまといっしょに生きるために、

イエスさまが十字架で死んでくださった

ことを知っていたのです。それほどイエスさまが愛してくださっているのですから、ほかの人をうらやましがることはありませんでした。

どんな人にも親切にして、すぐにおこったり、らんぼうなことはしませんでした。つらいことや苦しいことがあっても神さまがかならずよい

方向へ変えてくださると信じて、いつもイエスさまのことを思い、神さまに「ありがとうございます」と言いつづけていたのです。神さま

はあなたにどんなことがあってもよろこんでいること、イエスさまを思って祈ること、神さまに「ありがとうございます」と感謝することを望んでおられます。

今、あなたがとても苦しくて、泣いてしまうことがあっても、イエスさまはいつもあなたといっしょにいてくださいます。そして、かならず助けてくださいます。イエスさまはあなたが光の子どもとして生きていくことをよろこんでくださいます。

◆お祈り

「イエスさま、いつもいっしょにいてくださってうれしいです。ありがとうございます。」

(派遣教師・東京基督教大学 辻中保美)



2月3日

テーマ：「王のために祈りなさい」

聖書箇所：テモテへの手紙第一 2章1節～2節

◆今日のみことば

そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。

テモテへの手紙第一 2章1節

◆メッセージ

みなさんは、いつもどのようなお祈りをしているでしょうか。自分のことばかり祈っていますか。それとも誰かのことをおぼえて祈っていますか。

神さまは、すべての人のために祈るように、と命じています。何を祈ればよいのでしょうか。それは、すべての人が神さまの愛を知り、信じて救われるように、と祈るのです。神さまは、すべての人が救われることを願っておられるからです。世界中のみんなが神さまを信じていっしょに賛美できたら、うれしいですね。



さらに、神さまは「王とすべての高い地位にある人たち」のためにも祈るように、と命じています。私たちの国に王さまはいません。しかし、大臣や議員さんたちのように、私たちの住む国や町のルールや仕組みを作る大切な役目をもったリーダーたちがいます。



リーダーたちが「神さまのことを信じてはいけない」というルールを作ったら、みなさんはどうしますか。困りますよね。悲しいですね。そんな残念なことが起こらないように、私たちはそのようなリーダーたちのために祈らなければならないのです。

そのような人たちがまちがったこと、神さまが悲しむことをしていたら、それをやめるように祈りましょう。その人たちも神さまを信じて救われるように、また神さまが喜ぶようなことや、みんなが笑顔で喜んで過ごすことができる働きをしてくれるように祈りましょう。

私たちが心をあわせてすべての人のために、高い地位にある人たちのために祈るとき、神さまはその祈りを喜んでくださいます。それが神さまの願っていること、御心だからです。



◆お祈り

「神さま、世界中のリーダーたちが神さまを信じて、みんなが幸せに過ごせる世界を作ることができますように、どうぞ導いてください。」

(法人事務主事 河野優)

2月4日

テーマ：「<sup>すべ</sup>「<sup>ひと</sup>全ての人が<sup>すく</sup>救われることを<sup>のぞ</sup>望んで」

聖書箇所：<sup>てがみだいいち</sup>テモテへの手紙第一 <sup>しょう</sup>2章 <sup>せつ</sup>4節

◆今日のみことば

<sup>かみ</sup>神は、<sup>ひと</sup>すべての人が<sup>すく</sup>救われて、<sup>しんり</sup>真理を知るようになるのを<sup>のぞ</sup>望んでおられます。

<sup>てがみだいいち</sup>テモテへの手紙第一 <sup>しょう</sup>2章 <sup>せつ</sup>4節

◆メッセージ

ある日、私はともだちと海の見える丘に行きました。道路からはずれた、とても見はらしのよい崖の先に行って海を見ていたのですが、気がつくとう路のほうからなにやらおじいさんが必死に私たちにむかって手まねきしています。どうしたんだろうと思い、道路にもどると、息も切れ切れにおじいさんが言いました。「あなたたち、あそこに行っちゃダメだ、あの崖はくずれやすく、今まで13人あそこから落ちて死んでいるんだ。あなたたちは14人目になるところだったんだよ。」私たちがそこに行くのを遠くから見つけたおじいさんは、大あわてで走ってきてくれたのです。私たちはびっくりしました。「道路からあの崖に行く小道があったから、危ないとは思いませんでした。」と言うと、おじいさんは言いました。「この小道を信じちゃダメだよ。見はらしがいいからって、みんなあそこに行くので、その踏みあとでできた道なんだから。」と。

私たちのまわりにある<sup>たの</sup>楽しいこと、<sup>おもしろい</sup>こと、みんながやっているからといっていっしょ

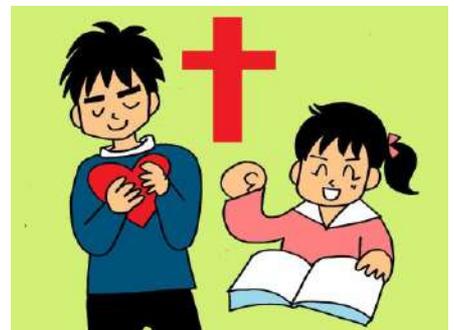


にやってもいいとはかぎりませんね。それって、<sup>ほんとう</sup>本当にしていることなのかな？本当に大丈夫なのかな？一番大事なことは、それをすることで、私たちがもっとイエスさまを大好きになれるかな、そうすることをイエスさまは<sup>よろこ</sup>喜んでおられるか、ということです。

<sup>かみ</sup>神さまは、<sup>ひと</sup>すべての人が<sup>すく</sup>救われて、この世の見た目は良いけれど悪いことにごまかされないで、<sup>ほんとう</sup>本当に大切なことは何かを知ってほしいとねがっています。それに、<sup>すく</sup>あなただけが救われればい

いとは言いません。「すべての人」が、です。今日、あなたは<sup>せいしょ</sup>聖書のみことばを<sup>よ</sup>読んで、<sup>かみ</sup>神さまを<sup>らい</sup>礼拝していますが、イエスさまのことを知らないで「<sup>あぶ</sup>危ない崖の<sup>ほう</sup>方へ行こうとしている」人が<sup>ひと</sup>世界には<sup>きょう</sup>今日もたくさんいるのです！

どうしたらいいでしょう？まず、あなたがいつもイエスさまといっしょにいることを<sup>よろこ</sup>喜ぶこと、それからひとりでも多くの人がイエスさまを知ることができるよう、お祈りしましょう。



◆お祈り

「いつもイエスさまについていけるように、また、イエスさまをまだ知らない人に教えてあげられるように、私を<sup>つよ</sup>強めてください。」

(国外宣教師・モンゴル 矢田紫野)

2月5日

テーマ：「捨てるべきものは一つもない」

聖書箇所：テモテへの手紙第一 4章4節

◆今日のみことば

神が造られた物はみな良い物で、感謝して受けるとき、捨てるべきものは何一つありません。  
テモテへの手紙第一 4章4節

◆メッセージ

神さまは、私たちに必要なすべてのものをお造りになりました。太陽や月、夜空の星々、また野山のきれいな花や虫、畑の野菜や果物など。すべては、人間にとって必要なもので、捨てるべきものは何もありませんでした。「神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった」(創世記1章31節)。



しかし、ある人たちは、神さまは「目に見えないお方」だから、「目に見えないもの」だけが聖くて良いものだと考え始めました。そして、「目に見えるもの」は悪いものだと考えるようになりました。そして、「目に見える」食べ物を口にすることを禁じたり、男の人と女の人が結婚することも禁じたりしました。(第一テモテ4章3節)

「目に見えるもの」は本当に聖くないのでしょうか？そんなことはありません。私たちが毎日おいしくいただいているご飯やパン、野菜や肉などを食べなかったら、どうなってしまおうでしょうか。病気になって死んでしまいませんか。



神さまは、私たちに生きていくために必要なものを備えられました。私たちが「感謝して受けるとき」、捨てるべきものは何一つありません。嫌いな野菜があったらどうしますか。すぐに残して、ゴミ箱へ捨ててしまいますか。「神さま、ありがとう」と感謝して、喜んでいただくことができれば、素晴らしいですね。

◆お祈り

「きょうも、神さまが与えてくださる食べ物、飲み物、そしてこの私の体を感謝いたします。あなたの栄光のために用いてください。」

(国外宣教師・ブラジル 浜田献)

2月6日

テーマ：「<sup>しんじゃ もほん</sup>信者の模範となりなさい」

聖書箇所：<sup>てがみだいいち しょう せつ</sup>テモテへの手紙第一 4章12節

◆今日のみことば

<sup>とし わか</sup>年が若いからといって、<sup>かる み</sup>だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、こと  
<sup>たいど あい しんこう じゅんけつ しんじゃ もほん</sup>ばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさい。

<sup>てがみだいいち しょう せつ</sup>テモテへの手紙第一 4章12節

◆メッセージ

ルステラという<sup>まち</sup>町に、テモテという<sup>しょうねん</sup>少年がいました。テモテさんの<sup>かあ</sup>お母さんはユダヤ人<sup>じん</sup>でしたが、<sup>とう</sup>お父さんはギリシャ人<sup>じん</sup>でした。シナゴグという学校<sup>がっこう</sup>に行くと、「おまえのお父さんはユダヤ



<sup>じん</sup>人ではないから、この世界<sup>せかい</sup>を造られた<sup>つく</sup>本当の<sup>ほんとう</sup>神様<sup>かみさま</sup>を知らない。だから<sup>にんげん</sup>人間の<sup>かんが</sup>考えた<sup>て</sup>手で造った<sup>つく</sup>神さま<sup>かみ</sup>を拜んでいるのだ。ぼく達<sup>おが</sup>ユダヤ人<sup>たち</sup>は、この天<sup>てん</sup>と地<sup>ち</sup>を造られた<sup>つく</sup>真<sup>まこと</sup>の神さま<sup>かみ</sup>を礼拝<sup>れいはい</sup>しているのに！」と言<sup>い</sup>われ、いじめられました。

テモテさんは、くやしくてたまりませんでした。すると、ユニケお<sup>かあ</sup>母さんが言いました。「お友達<sup>い</sup>の言うことは半分<sup>ともだち</sup>あたっているわ。手<sup>て</sup>で造った<sup>つく</sup>神さま<sup>かみ</sup>なんて、どんなにピカピカ<sup>つく</sup>に造られていても命<sup>いのち</sup>がない

いのよ。でも本当の<sup>ほんとう</sup>神さま<sup>かみ</sup>は、この世界<sup>せかい</sup>と人間<sup>にんげん</sup>を造って下<sup>くだ</sup>さった方<sup>かた</sup>よ。ロイスおばあちゃんはその<sup>かみ</sup>神さま<sup>かみ</sup>のことをとても良く知<sup>よ</sup>っていて、お母さん<sup>かあ</sup>も、おばあちゃんからよく聖書<sup>せいしょ</sup>のお話<sup>はなし</sup>をいっ<sup>き</sup>ぱい聞かせてもらったわ。」

それからのテモテさんは、<sup>ほんとう</sup>本当の<sup>かみ</sup>神さま<sup>かみ</sup>のことをもっと知りたくて、おばあちゃんとお母さん<sup>かあ</sup>から聖書<sup>せいしょ</sup>の話<sup>はなし</sup>をいっぱい聞きました。やがてテモテさんは大人<sup>おとな</sup>になり、神さま<sup>かみ</sup>のことを伝える<sup>つた</sup>働<sup>はたら</sup>き人<sup>ひと</sup>のお手本<sup>てほん</sup>になりました。あの有名<sup>ゆうめい</sup>なパウロ先生<sup>せんせい</sup>からも愛<sup>あい</sup>され、たくさん<sup>おし</sup>のことを教<sup>か</sup>えてもらいました。そして書<sup>か</sup>き残<sup>のこ</sup>されたのが、この「テモテへ<sup>てがみ</sup>の手紙<sup>わが</sup>」です。パウロさんは、若い<sup>わか</sup>テモテさんに、「聖書<sup>せいしょ</sup>のみことばに<sup>したが</sup>従<sup>したが</sup>う<sup>したが</sup>お手本<sup>てほん</sup>になりなさい。」と励<sup>はげ</sup>ましました。みことばに<sup>したが</sup>従<sup>したが</sup>うのに、年齢<sup>ねんれい</sup>は関係<sup>かんけい</sup>ありません。大人<sup>おとな</sup>だから<sup>したが</sup>従<sup>したが</sup>うことができるのではありません。子ども<sup>こ</sup>の時<sup>とき</sup>から<sup>したが</sup>従<sup>したが</sup>うことができます。聖書<sup>せいしょ</sup>のことばには、命<sup>いのち</sup>があり、どんな大人<sup>おとな</sup>のことばよりも力<sup>ちから</sup>があるので、神さま<sup>かみ</sup>を愛<sup>あい</sup>する人々<sup>ひとびと</sup>のお手本<sup>てほん</sup>になることができますのです。

<sup>ちい</sup>小さい時<sup>とき</sup>から聖書<sup>せいしょ</sup>のことばを知<sup>し</sup>ることができるのは、なんと幸<sup>さいわ</sup>いなことでしょう。テモテさん<sup>ま</sup>に負<sup>ま</sup>けないようにがんばりましょう！

◆お祈り

「<sup>せいしょ</sup>聖書<sup>せいしょ</sup>のことばによって、いつも私<sup>ちから</sup>に力<sup>ちから</sup>を<sup>あた</sup>与えてください。アーメン。」

(支援教師 吉持節子)



2月7日

テーマ：「<sup>かぞく めんどう</sup>家族の面倒をみる」

聖書箇所：<sup>てがみだいいち</sup>テモテへの手紙第一 <sup>しょう せつ</sup>5章4節～8節

◆今日のみことば

もしも<sup>しんぞく</sup>親族、<sup>じぶん</sup>ことに自分の<sup>かぞく</sup>家族を<sup>かえり</sup>顧みない人がいるなら、その人は<sup>ひと しんこう</sup>信仰を捨ててい  
るのであって、<sup>ふしんしゃ</sup>不信者よりも悪いのです。 <sup>てがみだいいち</sup>テモテへの手紙第一 <sup>しょう せつ</sup>5章8節

◆メッセージ

テモテさんは<sup>ぼくし</sup>牧師をしていました。<sup>きょうかい</sup>教会には、<sup>おっと</sup>夫が死んでしま  
った<sup>おく</sup>奥さんたちがいました。このような人を「やもめ」と言  
います。やもめのなかには、<sup>かぞく しんせき</sup>家族や親戚がいる人たちがいました。  
でも、<sup>こ</sup>子どもも<sup>まご</sup>孫も<sup>しんせき</sup>親戚もない<sup>まず</sup>貧しいやもめもいました。<sup>きょうかい</sup>教会  
は、このような<sup>かぞく</sup>家族がいないやもめを<sup>しんせつ</sup>親切に助けていました。そ  
して、そのやもめたちが<sup>かみ</sup>神さまを心から<sup>しん</sup>信じて<sup>きょうかい</sup>教会のために  
<sup>ねっしん</sup>熱心にお祈りをしていたので、<sup>きょうかい</sup>教会は<sup>かみ</sup>神さまからたくさんの  
<sup>しゅくふく</sup>祝福をいただいていた。



ところが、<sup>かみ</sup>神さまを信じているのに自分の<sup>じぶん</sup>家族を<sup>たいせつ</sup>大切にしない人たちが<sup>きょうかい</sup>教会にいました。<sup>かぞく</sup>家族  
のなかに<sup>まず</sup>貧しい生活をしているやもめがいても<sup>たす</sup>助けてあげようとしない人たちがいたのです。<sup>しんせつ</sup>親切  
な人たちに<sup>まか</sup>任せておけばいいや、と<sup>あま</sup>甘えていたのでしょね。それで、パウロさんはテモテさんに、  
<sup>かぞく</sup>家族のなかにいるやもめを<sup>たいせつ</sup>大切にすることと、<sup>かぞく</sup>家族の他の人たちも<sup>たいせつ</sup>大切にすることを<sup>おし</sup>教えてあげな  
さい、と<sup>てがみ</sup>手紙に書きました。



私たちに<sup>かぞく</sup>とって家族は特別な人たちです。<sup>ちい</sup>小さいときから<sup>おな</sup>同じ家  
に<sup>す</sup>住んで、<sup>はん</sup>いっしょにご飯を<sup>た</sup>食べ、<sup>み</sup>いっしょにテレビを<sup>み</sup>見たりします。  
私たちが<sup>びょうき</sup>病気になる<sup>しんばい</sup>と心配して、<sup>はや</sup>早く<sup>げんき</sup>元気になるように<sup>かみ</sup>神さまにお  
<sup>いの</sup>祈りをして<sup>くれ</sup>くれます。そして、<sup>げんき</sup>元気になるととても<sup>よろこ</sup>喜んでくれます。  
<sup>かみ</sup>神さまを信じている<sup>しん</sup>私たちは、<sup>かみ</sup>神さまの<sup>まも</sup>ことばを守ろうとします。  
その<sup>きもち</sup>気持は、<sup>いえ</sup>家で<sup>かぞく</sup>家族といっしょにいるときも<sup>か</sup>変わりません。<sup>かみ</sup>神さま  
が<sup>よろこ</sup>喜んでくださることを<sup>し</sup>知っているからです。<sup>かみ</sup>神さまを<sup>しん</sup>信じている

のに、<sup>じぶん</sup>自分の<sup>かぞく</sup>家族を<sup>たいせつ</sup>大切にしない人<sup>ひと</sup>を<sup>かみ</sup>神さまは<sup>よろこ</sup>喜ばれません。それどころか、<sup>かみ</sup>神さまに<sup>はんたい</sup>反対する  
人<sup>ひと</sup>のよう<sup>てがみ</sup>です、とパウロさんは<sup>か</sup>手紙に書きました。

<sup>かみ</sup>神さまは私たちに<sup>かぞく</sup>家族を<sup>あた</sup>与えてくださいました。これは<sup>かみ</sup>神さまからの<sup>おお</sup>大きな<sup>めぐ</sup>恵みです。この<sup>おお</sup>大きな  
<sup>めぐ</sup>恵みを<sup>かみ</sup>神さまに<sup>かんしゃ</sup>感謝して、これから<sup>かぞく</sup>家族を<sup>たいせつ</sup>大切に<sup>しま</sup>しましょう。

◆お祈り

「私たちに<sup>かぞく</sup>家族を<sup>あた</sup>与えてくださりありがとうございます。これから<sup>かぞく</sup>家族を<sup>たいせつ</sup>大切に<sup>でき</sup>ますよ  
うに<sup>たす</sup>助けてください。」

(支援教師 中村矢枝子)

2月8日

テーマ：「<sup>しんこう</sup>信仰から<sup>まよ</sup>迷い出る<sup>で</sup>危険<sup>きけん</sup>」

聖書箇所：<sup>てがみだいいち</sup>テモテへの手紙第一 <sup>しょう</sup>6章 <sup>せつ</sup>9節～<sup>せつ</sup>10節

◆今日のみことば

<sup>きんせん</sup>金銭を<sup>あい</sup>愛することが、あらゆる<sup>あく</sup>悪の<sup>ね</sup>根だからです。ある<sup>ひと</sup>人たちは、<sup>かね</sup>金を<sup>お</sup>追い<sup>もと</sup>求めたために、<sup>しんこう</sup>信仰から<sup>まよ</sup>迷い出て、<sup>ひじょう</sup>非常な<sup>くつう</sup>苦痛をもって<sup>じぶん</sup>自分を<sup>さ</sup>刺し<sup>とお</sup>通しました。

テモテへの<sup>てがみだいいち</sup>手紙第一 <sup>しょう</sup>6章 <sup>せつ</sup>10節

◆メッセージ

もし、<sup>えん</sup>100円あつたらどんな<sup>かし</sup>お菓子<sup>か</sup>が買えるかな？じゃあ<sup>えん</sup>1000円あつたら、<sup>どう</sup>どうかな？じゃあ、もし、もし、<sup>えん</sup>10000円あつたら！？<sup>だいす</sup>大好きな<sup>かし</sup>お菓子<sup>か</sup>がたくさん買える！お菓子<sup>かし</sup>だけじゃなくて、<sup>ほ</sup>欲しかった<sup>お</sup>おもちゃも買えるかも！

<sup>かね</sup>お金ってすごいね。こう聞いたら、「<sup>かね</sup>お金が<sup>ほ</sup>いっぱい<sup>かね</sup>欲しい。お金があれば<sup>たの</sup>たくさん<sup>うれ</sup>楽しめるし、<sup>おも</sup>嬉しいことが<sup>ほ</sup>いっぱい。」<sup>お</sup>そう思うかも<sup>し</sup>れないね。

でもね、<sup>かみ</sup>神さまは、こう<sup>い</sup>言っているんだ。「<sup>かね</sup>お金が<sup>ほ</sup>欲しいと思うのは、<sup>あく</sup>すべての<sup>はじ</sup>悪の<sup>はじ</sup>始まりなんだ。お金<sup>かね</sup>を<sup>もと</sup>求めて、<sup>かみ</sup>神さまを<sup>しん</sup>信じる<sup>こころ</sup>心<sup>ひと</sup>をなくして<sup>ほく</sup>しまった人も<sup>い</sup>いるんだよ。」もし、<sup>ぼく</sup>僕たちが<sup>かね</sup>お金を<sup>だいす</sup>大好きになって、<sup>かね</sup>お金が<sup>ほ</sup>いっぱい<sup>お</sup>欲しいと思うなら、それは<sup>わる</sup>悪いことで、<sup>あぶ</sup>危ないことなんだ！

<sup>たし</sup>確かに、<sup>かね</sup>お金が<sup>ほ</sup>いっぱいあつたら、<sup>かし</sup>お菓子も<sup>か</sup>いっぱい買えるし、<sup>お</sup>おもちゃだって、<sup>ゲーム</sup>ゲームだって、<sup>か</sup>なんでも<sup>かね</sup>買える。でも、<sup>かね</sup>お金が<sup>ほ</sup>欲しいと思<sup>お</sup>って<sup>い</sup>生きるなら、<sup>ぼく</sup>僕たちは<sup>ほんとう</sup>本当に<sup>たいせつ</sup>大切なものを<sup>なく</sup>しちゃうんだ。それは、<sup>かみ</sup>神さまを<sup>しん</sup>信じる<sup>こころ</sup>心。

もし、<sup>かみ</sup>神さまを<sup>しん</sup>信じる<sup>こころ</sup>心<sup>こころ</sup>をなくしたら、<sup>かみ</sup>どうな<sup>しん</sup>っちゃうかな？<sup>こころ</sup>神さまを<sup>こころ</sup>信じる<sup>こころ</sup>心<sup>こころ</sup>をなくすと、<sup>てんごく</sup>天国に行け<sup>い</sup>ないし、<sup>かみ</sup>神さま・<sup>あ</sup>イエスさまと<sup>あ</sup>会うことが<sup>あ</sup>できない。<sup>し</sup>死んだ<sup>あと</sup>後に、<sup>くる</sup>もの<sup>め</sup>すごく<sup>め</sup>苦しい目<sup>め</sup>にあ<sup>め</sup>っちゃうんだ。

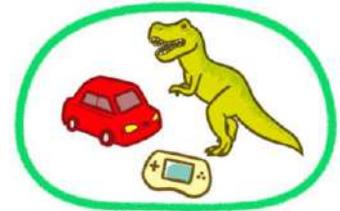
でも、もし、<sup>ぼく</sup>僕たちが<sup>かみ</sup>神さまを<sup>しん</sup>信じる<sup>こころ</sup>心<sup>こころ</sup>を<sup>も</sup>持ち<sup>つづ</sup>続けるなら、<sup>ぼく</sup>僕たちは<sup>てんごく</sup>天国に行<sup>い</sup>って、<sup>かみ</sup>神さま・<sup>あ</sup>イエスさまと<sup>あ</sup>お会<sup>あ</sup>いできるし、<sup>えいえん</sup>永遠の<sup>も</sup>いのち<sup>も</sup>を持つ<sup>てんごく</sup>ことができるんだ。天国は、<sup>くる</sup>苦しみも<sup>なみだ</sup>涙<sup>なみだ</sup>もない<sup>せかい</sup>世界<sup>かね</sup>なんだよ。お金<sup>かね</sup>なんかより、<sup>ぜんぜん</sup>全然<sup>ぜんぜん</sup>すごいね！

<sup>ぼく</sup>僕たちにとって、<sup>かね</sup>お金よりも、<sup>かみ</sup>どんなことよりも<sup>しん</sup>大切な<sup>こころ</sup>のは、<sup>かみ</sup>神さまを<sup>しん</sup>信じる<sup>こころ</sup>心。お金<sup>かね</sup>が<sup>ほ</sup>欲しいと思<sup>お</sup>う<sup>こころ</sup>心<sup>こころ</sup>を持つ<sup>かみ</sup>ん<sup>しん</sup>じゃなくて、<sup>こころ</sup>神さまを<sup>こころ</sup>信じる<sup>こころ</sup>心<sup>こころ</sup>を持って<sup>い</sup>こうね。

◆お祈り

「<sup>ぼく</sup>僕たちが<sup>かね</sup>お金よりも<sup>かみ</sup>神さまを<sup>しん</sup>信じる<sup>こころ</sup>心<sup>こころ</sup>を<sup>たいせつ</sup>大切に<sup>かね</sup>することが<sup>ほ</sup>できますように。お金<sup>かね</sup>が<sup>ほ</sup>欲しいと思<sup>お</sup>いながら<sup>い</sup>生きて<sup>い</sup>かないように<sup>い</sup>してください。」

(茨木聖書教会伝道師 吉持尽主)



2月9日

テーマ：「わかち合う知恵」

聖書箇所：テモテへの手紙第一 6章 17節～19節

◆今日のみことば

また、人の益を計り、良い行いに富み、惜しまずに施し、喜んで分け与えるように。  
テモテへの手紙第一 6章 18節

◆メッセージ

パウロさんは、この世の富を多く持つ人たち、たとえばお金持ちに対してメッセージを送っています。この世には、たくさんのお金を持っていることで、自分の人生はもう安心だと勘違いし、神さまに目を向けない人がいます。そのようなお金持ちは、銀行にたくさんのお金を預け、そのお金をこの世で、自分の楽しみや、家族のためだけに使おうとします。またお金を持っていることを自慢したり、持たない人を低く見てしまったりすることもあります。しかしお金は、本当は頼りになりません。火事になれば燃えてしまいます。お金があっても買えないものがあります。パウロさんは、「お金持ちであることを自慢してはいけませんよ。本当に頼りになるのは神さまだけです。本当に楽しい人生を送れる人は、神さまに信頼する人だけです。」と教えています。



もちろん、クリスチャンはお金持ちになってはいけないということではありません。聖書には、たくさんのお金持ちが登場します。でもパウロさんは、この世の富を多く持つ人には、その使い方に対して、「大きな責任がありますよ。」と教えています。それはどんな責任でしょうか。たとえばそれは、自分の楽しみや、自分の家族のためだけにお金をつかうのではなく、より多くの人に喜ばれるようにお金を使うことです。また特に大切なのは、困っている人たちにお金を寄付し、そしてそれを損と思わないことです。そのようなお金の使い方が、神さまに喜ばれるのです。



◆お祈り

「神さま。私がお金に頼ってしまうことがないように助けてください。またもし私がお金持ちになったら、神さまに喜ばれるお金の使い方ができますように。」

(派遣教師・東京基督教大学 岡村直樹)

2月10日

テーマ：「<sup>しんこう</sup>信仰の<sup>けいしょう</sup>継承」

聖書箇所：<sup>てがみだいに</sup>テモテへの<sup>しょう</sup>手紙<sup>せつ</sup>第二 1章 1節～2節

◆今日のみことば

<sup>あい</sup>愛する子<sup>ちち</sup>テモテへ。<sup>かみ</sup>父なる神<sup>しゅ</sup>および私たちの主<sup>めぐ</sup>キリスト・イエスから、恵みとあわれみ  
と<sup>へいあん</sup>平安がありますように。 <sup>てがみだいに</sup>テモテへの<sup>しょう</sup>手紙<sup>せつ</sup>第二 1章 2節

◆メッセージ

テモテへの<sup>てがみだいに</sup>手紙<sup>じつ</sup>第二は、実はパウロさんが<sup>か</sup>書いた<sup>さいご</sup>最後のお手紙<sup>てがみ</sup>になりました。というのも、このときパウロさんはローマで<sup>ろうや</sup>牢屋<sup>ころ</sup>につながれていて、まもなく殺されようとしていたからです。はげしい<sup>はくがい</sup>クリスチャンへの<sup>はじ</sup>迫害<sup>はくがい</sup>が始まろうとしていました。パウロさんは、このお手紙<sup>てがみ</sup>の中で、迫害<sup>な</sup>の中<sup>なか</sup>でもイエスさまを<sup>しん</sup>信じることをやめてしまわないように、ますます<sup>ゆうかん</sup>勇敢<sup>ゆうかん</sup>にイエスさまのことを<sup>ひとびと</sup>人々に<sup>つた</sup>伝えていくようにはげましています。

さて、パウロさんはこのお手紙<sup>てがみ</sup>を「<sup>あい</sup>愛する子<sup>こ</sup>テモテへ」と書いてテモテさんに宛<sup>あ</sup>てました。どうしてでしょう？それはテモテさんこそ、パウロさんと<sup>こころ</sup>心<sup>ひと</sup>を一つにしてイエスさまのことを<sup>つた</sup>伝えてくれる<sup>さいこう</sup>最高の<sup>なかま</sup>仲間<sup>なかま</sup>だったからです。テモテさんは<sup>じゅんすい</sup>純粋<sup>つよ</sup>で強い<sup>しんこう</sup>信仰<sup>も</sup>の持ち主<sup>ぬし</sup>でした。パウロさんとはよくいっしょに<sup>でんどうりょこう</sup>伝道旅行<sup>でんどうりょこう</sup>に出かけました。<sup>とちゅう</sup>途中<sup>はくがい</sup>、迫害<sup>こんなん</sup>や困難<sup>ま</sup>にあっても<sup>ま</sup>負け<sup>ま</sup>ません。そしてたくさん<sup>ひと</sup>の人がパウロさんから<sup>い</sup>去<sup>い</sup>って行<sup>い</sup>っても、テモテさんは<sup>さいご</sup>最後まで<sup>い</sup>パウロさん<sup>い</sup>について行<sup>い</sup>ったのです。パウロさんは、このテモテさんのために、<sup>かみ</sup>神さま<sup>めぐ</sup>からの恵み<sup>へいあん</sup>とあわれみ<sup>へいあん</sup>と平安<sup>へいあん</sup>があるようにと祈<sup>い</sup>っています。

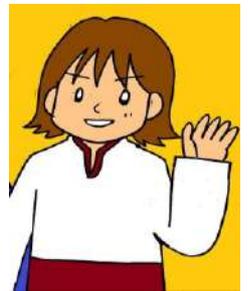
テモテさんのこの<sup>じゅんすい</sup>純粋<sup>しんこう</sup>な信仰<sup>しんこう</sup>は、どこから<sup>き</sup>来た<sup>き</sup>のでしょうか。実はテモテさんのおばあちゃん、おかあさんから<sup>う</sup>受け<sup>つ</sup>継<sup>つ</sup>いだものでした。テモテさんは小さいころから<sup>かみ</sup>神さま<sup>れいはい</sup>を礼拝<sup>せいしよ</sup>し、聖書<sup>せいしよ</sup>のおはなしをたくさん<sup>き</sup>聞いて、お祈<sup>いの</sup>りをして<sup>そだ</sup>育<sup>そだ</sup>ちました。そしてその後<sup>ごお</sup>が大き<sup>ごお</sup>くなってから、<sup>せかいじゅう</sup>世界中<sup>せかいじゅう</sup>でイエスさまのことを<sup>つた</sup>伝える<sup>あ</sup>パウロさん<sup>あ</sup>に出<sup>あ</sup>会<sup>あ</sup>って「<sup>せかいせんきょう</sup>世界宣教<sup>せかいせんきょう</sup>」チームの<sup>なかま</sup>仲間<sup>なかま</sup>になったのです。

あなたに<sup>しんこう</sup>信仰<sup>しんこう</sup>の<sup>ひと</sup>バトン<sup>ひと</sup>をわたしてくれた人はだれですか？おとうさんですか？おかあさんですか？お友<sup>とも</sup>だちですか？<sup>かみ</sup>神さま<sup>かみ</sup>は、あなたにこの<sup>しんこう</sup>信仰<sup>しんこう</sup>の<sup>う</sup>バトン<sup>う</sup>を受け<sup>う</sup>とってほしいと<sup>ねが</sup>願<sup>ねが</sup>っています。そしてテモテさんのように<sup>じゅんすい</sup>純粋<sup>しんこう</sup>な<sup>そだ</sup>信仰<sup>そだ</sup>を<sup>そだ</sup>育<sup>そだ</sup>てて、どんな時<sup>とき</sup>でもその<sup>とき</sup>バトン<sup>とき</sup>をしっかりとにぎって、<sup>さいご</sup>最後<sup>さいご</sup>まで<sup>はし</sup>走り<sup>はし</sup>ぬく<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>になってください。

◆お祈り

「<sup>てん</sup>天<sup>とう</sup>のお父<sup>とう</sup>さま。わたしもテモテさんのように<sup>しんこう</sup>信仰<sup>しんこう</sup>の<sup>う</sup>バトン<sup>う</sup>を受け<sup>う</sup>取<sup>と</sup>って、<sup>さいご</sup>最後<sup>さいご</sup>まで<sup>はし</sup>走り<sup>はし</sup>抜<sup>ぬ</sup>くことができますように。」

(国外宣教師・台湾 齋藤千恵子)



2月11日

テーマ：「聖書は神の靈感による」

聖書箇所：テモテへの手紙第二 3章16節

◆今日のみことば

聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。  
テモテへの手紙第二 3章 16節

◆メッセージ

聖書は「神のことば」と言われます。いったいどういう意味でしょうか。聖書六十六巻には、それぞれに著者といって、実際に書いた人たちがいます。旧約聖書ではモーゼさん、ダビデさん、イザヤさん、新約聖書ではマタイさん、ルカさん、パウロさんなど、多くの人たちが聖書を書いたのです。でも、これらの人たちは、自分の考えを書きたいように書いたのではありません。目に見えない聖霊の働きを通し、神さまが伝えなさいと言われたことを、祈りながらまとめたのです。ですから聖書は、代筆の手紙ともいえますね。聖書の内容は、すべて神さまから来ているのです。



神のことばである聖書は「有益」です。有益とは役に立つということです。いったいどんな点で役に立つのでしょうか。二つのことがあります。第一に聖書は、神さまの子どもになるために何を信じたら良いかを教えてくれます。具体的には、私たちが神さまの子どもとなるため、神さまがイエスさまを通して何をしてくださったのか。聖書はそれを教えているのです。



第二に聖書は、私たちが神の子どもとして成長するため、どうしたら良いかを教えています。あなたのお父さん、お母さんも、あなたが成長するために、いろんなことを教えてくれますね。もし、あなたが間違いをししたら叱ることもあります。それはあなたのことが嫌いだからではありません。愛しているからこそ、間違いがあれば叱るし、そうやって正しく成長して欲しいと願っているのです。同じように神さまも、私たちが神さまの

子どもとして成長するために聖書を通して教えておられるのです。教えてくださるだけでなく、神さまに似るように私たちを変えてくださいます。毎日、聖書を読んで、成長したいですね。

◆お祈り

「天のお父さま。あなたのことばである聖書を読んで、聖書から学び、あなたの子どもの成長することができますように。」

(国外宣教師・台湾 齋藤五十三)

2月12日

テーマ：「時が良くても悪くても」

聖書箇所：テモテへの手紙第二、4章2節

◆今日のみことば

みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。テモテへの手紙第二4章2節

◆メッセージ

あなたは両手で水をすくったことがありますか。水はいつまでも手の中にありますか。だんだんと少なくなっていきますね。それは指の間からもれるからです。さて、時間も手ですくった水のようにいつの間にかなくなっていくことについて考えてみましょう。

あなたは今、何年生ですか。あなたにはこれからも沢山の時間があるでしょう。勉強したり、遊んだり、家族とどこかへ行ったり、あるときは誰かとけんかすることも…。嬉しいことも悲しいこともいっぱい経験するでしょう。時間は神さまからのプレゼントです。長く生きてたくても、病気や事故などで、いつ、その時間がなくなってしまうかわかりません。今の時間を大切なことのために使わなければなりません。それは、「神さまを愛し、人を愛する」ことです。学校で、家庭で、お友

だちと遊ぶ時にも、きょうだいと過ごす時にも、このことを心に覚えておくが大事です。

神さまを知らない人がたくさんいます。教会に行って、イエスさまのお話を聞き、天の神さまが、太陽や月や星、山や陸地、川や海、動物も魚も草木も…私たちが住むこの自然界のものすべてをお造りになり、人を造られたこと、そして私たち一人一人を愛してとても大切にしてください

っていること、神さまはいつも私たちと一緒にいてくださって、天国も用意して下さっていることなどについて、教えてもらわないと、一番大事なことを知らないままで時間が過ぎて行ってしまいます。

あなたは、神さまのこと、イエスさまのことを知っていますか。神さまはあなたに、もっとたくさん知って欲しい、そして神さまのことをまだ知らない人たちに伝えて欲しいと願っておられます。

◆お祈り

「神さまのことを知らない人たちに、神さまのことを伝えることが出来るように、私に力を与えてください。」

(派遣教師・西神ニュータウン聖書教会 二神勝彦)



2月13日

テーマ：私たちがきよめるために

聖書箇所：テトスへの手紙2章14節

◆今日のみことば

キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のためにきよめるためでした。

テトスへの手紙 2章14節

◆メッセージ

今ではとても考えられないことですが、昔は、人（奴隷）を売ったり買ったりする時代が長くありました。戦争に負けて奴隷になったり、国に対して罪を犯して奴隷になったり、お金を返せなくて奴隷になったりなど、色んな理由で人間としての自由を奪われて、主人の物（財産）になって言う通りにしなければなりません。今、あなたが昔の時代のように、何らかの理由で誰かの奴隷になったと考えるみてください。どうでしょう。考えるだけで、いやですね。奴隷ではなく、人が自由であることはとても重要なことです。奴隷の状態から抜け出したいと思っても、なかなか自由になれません。でも、奴隷のために、お金を払って解放する（自由にする）こともありました。お金だけではありませんが、自由になるためには、それにふさわしい代価を払わなければなりません。

聖書は、すべての人は罪を犯し、罪の奴隷になったと教えています。悪いとわかっている、罪の言いなりになっています。誰も、罪を犯していない人、罪から自由な人はいません。罪を犯しては、聖なる神さまとともにいることができませんし、裁きを受け、永遠の刑罰を受けます。すべての人は罪の奴隷で、とてもかわいそうな状態なのです。



しかし、罪のない神の御子イエスさまは、罪を犯し、罪の奴隷になって滅びていく人々のために、ご自分が「奴隷を解放する代価」となってくださいました。

イエスさまは十字架で、その代価を払ってくださって、イエスさまを信じる者が誰一人、滅びることがないようにしてくださったのです。

私たちが罪の奴隷として滅びないように、十字架を背負ってくださったイエスさまに感謝しましょう。そして、このイエスさまの愛を多くの人々に伝えることができますように祈りましょう。



◆お祈り

「神さま。罪の奴隷となった私たちのためにイエスさまを送ってくださりありがとうございます。また、イエスさまを信じるように信仰を与えてくださってありがとうございます。多くの大事な友だちにもイエスさまの愛を伝えることができますように助けてください。」

(高麗聖書教会牧師 李相勳)

2月14日

テーマ：役に立つもの

聖書箇所：ピレモンへの手紙 1 1 節

◆今日のみことば

彼は、前にはあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにとっても私にとっても、役に立つ者となっています。 ピレモンへの手紙 1 1 節

◆メッセージ

このパウロさんの手紙は、コロサイの教会で役員をしていたピレモンさんに送られた手紙です。ピレモンさんの家で働いていたオネシモさんはその家のお金を取って逃げ出しましたが、パウロさんと出会い、イエスさまを信じて救われました。そこで、イエスさまに変えられたオネシモさんを赦し、受け入れてくれるように、パウロさんは願ったのです。

皆さんだったらどうでしょうか。自分のものを盗んでしまった人を赦すことができますか。それは本当に難しいことですね。ところがパウロさんはピレモンさんの手紙の中で、オネシモさんが取った物は自分が払いますと言いました。身代わりとなってオネシモさんを守るパウロさんの愛を、ここに見ることができますね。パウロさんは、奴隷のオネシモさんのことを可哀想に思っただけで助けてあげたわけではありません。オネシモさんのことを「役に立つもの」と言っています。自分のことを支えてくれる大切な人となっているというのです。

オネシモさんは、自分の罪のために十字架で死んでくださったイエスさまを信じ、変わりました。そして、その救いへと導いてくれたパウロさんの愛によって、さらに

変えられたことでしょう。それは、以前は人の物を盗んでしまうような罪人であったオネシモさんが神さまを信じ、イエスさまのすばらしさを伝える「役に立つもの」となりました。

私たちも神さまの前に「役に立つもの」となりたいです。ルターという人は「私たちはみな神のオネシモである。」と言いました。私たちの罪の負債をすべて引き受けて、十字架で死んでくださったイエスさまを信じることによって、私たちもオネシモさんと同じように「役に立つもの」と変えられることができます。神さまの愛を知り、イエスさまの救いを受け、その素晴らし

さを多くの人に伝える者となりましょう。

◆お祈り

「神さま。イエスさまがオネシモさんのように罪を犯した私たちの罪を負い、十字架にかかってくくださったことを感謝いたします。多くの罪を赦された者として、神さまの役に立つものに変えてください。」

(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)



2月15日

テーマ：イエスのことを<sup>かんが</sup>考えなさい

聖書箇所：ヘブル人への手紙<sup>てがみ しょう せつ</sup>3章1節

◆今日のみことば

そういうわけですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。

ヘブル人への手紙<sup>びと てがみ しょう せつ</sup>3章1節

◆メッセージ



自分に宛てた手紙が届くとうれいすよ。何が書いてあるのだろうと、しっかり読むと思ひます。このヘブル人への手紙を書いた人は、読む人にイエスさまを信じているということが、どれほど大切で、すばらしいことなのかをよく知ってほしいと願っているのです。

いまの私たちの生活は、楽しいことや宿題や、やることがいっぱいあって、イエスさまのことを忘れてしまうことがあるかもしれません。

でも教会やバイブルキャンプで、神さまのひとり子イエス・キリストが私の罪をゆるすために代りに十字架で死んでくださった、ということを聞いて信じた私たちです。神さまがこれほど私を愛していてくださることを知り、感謝しさんびするために、毎週教会へ行って礼拝しています。

十字架で死なれたイエスさまは、三日目によみがえり、今、天にいて私たちのためにいつも祈ってくださるのです。このイエスさまのことを忘れないで、いつも考えてほしいと、この手紙は伝えているのです。二千年前にこの手紙を読んだ人たちと同じように、私たちもイエスさまのいる天の国を<sup>てん くに め</sup>目指しているのです。



◆お祈り

「いつもイエスさまのことを大切に<sup>たいせつ</sup>にし、イエスさまのことを<sup>かんが</sup>考えるようにしてください。」

(支援教師 朝岡満喜子)

2月16日

テーマ：神の言葉は両刃の剣よりも鋭い

聖書箇所：ヘブル人への手紙4章1節～13節

◆今日のみことば

神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

ヘブル人への手紙4章12節

◆メッセージ

最近、我が家の男の子たちは戦国時代を背景にした大河ドラマにはまっています。侍の真似をしたり、時には忍者になったりして楽しんでます。プラスチックのおもちゃですが、侍の立派な剣も持っています。本物そっくりで、格好良いのですが、これが本物だったら、本当に人のいのちを奪う恐ろしいものだなとも思います。

聖書は「神のことは両刃の剣よりも鋭い」と言っています。剣は恐ろしいものですが、人や物を斬ることはできても、人の心や思いを殺すことはできません。しかし、神さまのみことばは剣どころではなく「たましいと霊も、関節も骨髄の分かれ目さえも」刺し通します。

聖書はなぜ、こんなにも恐ろしい例えで、神さまのことはを説明しているのでしょうか。それは、神さまの御言葉には力があって、人を変えることができることを説明するためだけではなく、「神の安息に入る約束(1節)」、つまり、イエスさまを信じて、罪を悔い改め、天国の約束を持たなければ、すべての人は神さまの前で、隠れおおせることができず(13節)、たましいと霊を刺し通す神さまのことはにより、厳しい裁きを受けなければならないことを強調するためです。

もう一度12節を読んでみると、「神のことは生きていて、力があり」との説明が始まっています。剣は、いのちを奪うため、滅ぼすためのものですが、神さまのことは、「生きていて」、「いのち」があり、私たちに「その永遠のいのち」を与えてくださるのです。

神の御子、イエスさまを受け入れた人にとって、神さまのことは「いのち」であり、「力」です。私たちが、今、このようにイエスさまを信じ、神さまのことはを聞き、礼拝できることを感謝し、この恵みを多くの人にも伝えていきましょう。

◆お祈り

「神さま。いのちのことはを授けてくださりありがとうございます。いのちのことはを多くの人々に証しできますように助けてください。」



(高麗聖書教会牧師 李相勲)

2月17日

テーマ：神に近づこう

聖書箇所：ヘブル人への手紙4章15節～16節

◆今日のみことば

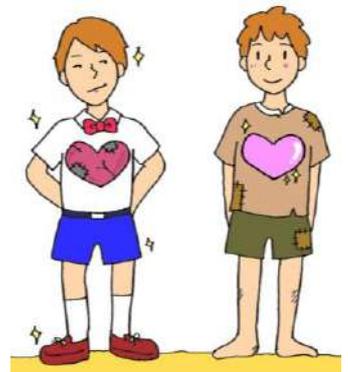
ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

ヘブル人への手紙4章16節

◆メッセージ

昨日どんなことがありましたか。どんなことをしましたか。思い出してみましょう。それは、神さまが喜んでくださることでしたか。神さまが喜んでくださることだったら、私たちもうれい  
ですね。私たちは笑顔になります。もしもこれがあべこべで、反対に私  
たちのしたことが神さまに喜ばれないことだったら、私たちの心はどうで  
しょうか。きっと元気がなくて、まっすぐではなく、ねじれた心になって、  
喜んで人と話をするのができなくて、自分の心にうそをついてしま  
う、そんな暗い子どもになってしまいますね。

もし私たちが、神さまに喜ばれない心になってしまったら、神さまに  
あやまらなくてはなりません。でも、正直に、そしてすぐにごめんなさい  
とあやまることは、なかなかむずかしいですね。そんな時、神さまは私  
たちに、きょうの聖書箇所を通して教えてください。「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情  
できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試  
みに会われたのです」(4：15)とあります。イエスさまは、神のみ子で全能のお方ですが、私  
たちと同じ人となってくださいました。だから、疲れてしまうことも、身体や心の痛みも、知ってい  
てください。大祭司は、神さまと人との間を取り持つ存在です。イエスさまは神さまのことも  
知っておられ、私たちのことも知っていて、間に入ってくださっています。すぐに神さまに謝るこ  
とのできない、がんこな私たちがイエスさまは同情して(知って、おもいやり)、私たちのために



父なる神さまにとりなしの祈りをしてください。イエスさまの  
助けをいただけるのですから、イエスさまのもとに近づいていきま  
しょう。「ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいた  
だいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に  
近づこうではありませんか。」と、続けて書かれています。

イエスさまによって、私たちは神さまに罪をゆるしていただき、  
神さまに喜んでいただく生活ができるようになります。イエスさ  
まを信じていきましょう。イエスさまにおまかせしていきましょう。

心から喜んで神さまに近づきましょう。

◆お祈り

「イエスさまによって、私は神さまに近づいていけることを感謝します。」

(支援教師 神尾鋼行)



2月18日

テーマ：キリストは生きていて、とりなして

聖書箇所：ヘブル人への手紙7章25節

◆今日のみことば

したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。  
キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。  
ヘブル人への手紙7章25節

◆メッセージ

クリスマスには、天の神さまが、私たちへ、イエスさまを救い主としてプレゼントして下さったことに感謝して、お祝いします。イースターには、私たちの罪の身代わりとなって十字架で死んで下さったイエスさま



のよみがえりを喜びます。しかし神さまのお恵みとは、それだけに終わりません。



よみがえられたイエスさまは、今も生きておられます。父なる神さまがおられる天にお帰りになられたイエスさまは、天で休んでおられるのではありません。イエスさまは、どんな時でも、私たちからいつでも目をはなさないで、毎日忘れずに、お祈りしていただきます。私たちがあぶないことに出会わないように、悪いいたづらをしないように、お友だちと仲良くできるように。私たちが聖書の教えに導かれて、悪い道にはいらぬようにと、いつでも天から見守り、助けてくださるのです。

これが、大祭司イエスさまのお働きなのです。このようにイエスさまが、私たちのことをとりなして（心配して）おられます。私たちは、イエスさまのとりなしに守られて、信仰生活を続けることができ、最後まで信仰をもって生きることができるのです。イエスさまののりです。朝と夜には次のようにお祈りして、助けられ守っていただきましょう。



◆お祈り

大好きなイエスさま、今日も遊んだり、勉強したりした時、無事に守ってくださり、感謝します。

(支援教師 葛西清蔵)

2月19日

テーマ：人は一度死ぬことと、死後の裁きが

聖書箇所：ヘブル人への手紙9章27節

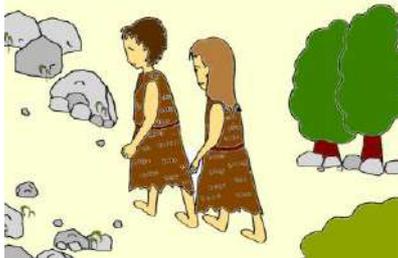
◆今日のみことば

人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、  
ヘブル人への手紙9章27節

◆メッセージ

親戚のおじいさんが亡くなったり、学校のお友達が病気で亡くなったときや、多くの人たちが事故で亡くなったりするニュースを見ると、自分もいつか亡くなるのだ、私は死んだらどうなるのと考えたことがありますか。

人間は必ず死にます。聖書を見ると創世記3章に、神さまは人に「それを食べると、あなたは必ず死ぬ」と言われたことばがあります。アダムとエバは、神さまのおことばよりも、自分の考えや思いの方を選んでしまいました。神さまのみことば通り、人は死んで、肉の身体がなくなってしまうようになりました。死んで終わりではありません。人が死ぬのと同じ確かさで、神さまのさばきを受けることが言



われています。死んだ後、神さまの前で、行ったこと、口にしたこと、心に思ったこと、すべてが明らかにされて、さばかれることになります。大丈夫でしょうか？神さまが人（アダム）を神のかたちにつくられ、エデンの園に住まわせてあげました。神さまは人に一つだけきびしい注意をしました。それは「エデンの園の果物はどれでも食べても良い。しかし、『良いことと悪いことを判断する力のつく（この表現はどうでしょうか？「知識の）木』の実だけは絶対に食べてはいけない。それを食べると、あなたは必ず死ぬ」でした。神さまはそのあと、女の人（エバ）をつくられました。神さまが注意したことを守らないと「必ず死ぬ」と言われていましたが、二人はサタン（へび？）に誘惑されてその木の実を食べてしまい、神さまから言われた注意を守ることができませんでした。二人はエデンの園から追い出され、自分たちで汗を流して働き、罪人として死んで行くことになったのです。

私たちはうそをついたり、人の悪口を言ったり、たくさんの罪を犯しています。罪人である私たちが、そのままでは天国に行くことはできません。天国は罪のないところだからです。でも安心してください。私たちの罪の身代わりとなって十字架で死んで、よみがえられたイエスさまを信じるなら、罪が赦され、罪のさばきに会うことがなく、天国に行くことができ、永遠のいのちが与えられるのです。



◆お祈り

「救い主イエスさまを信じて、罪のさばきに会うことがありませんように。」

(港南福音教会牧師 鴫田典子)

2月20日

テーマ：大胆にみ座に

聖書箇所：ヘブル人への手紙10章22節

◆今日のみことば

全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。ヘブル人への手紙10章22節

◆メッセージ

私たちには知っていることも、知らないことも色々あります。友だちのこととか、将来のこととかたくさん知りたいですね。

けれども、私たちがどうしても知らなくてはならないことがあります。それは、「神さまに近づく」ということです。ヘブル人への手紙10章22節では「神に近づきなさい」といいます。この神さまは石や木で造った神さまでも、蛇やキツネの形をした神さまでもありません。



この神さまは十字架にかけられ、血を流されいのちを捨てたイエスさまです。もちろん、知っていますよね。それだけでなく、イエスさまは今ここにいる私たちのために血を流された方なのです。私たちの心の中にある「邪悪な良心」という悪い思いを洗いよめるために、血を注いでくださったのです。私たちは誰でも、悪い思いを心の中に持っています。例えば消しゴムで紙の上をこすって文字を消したり、せっけんで手を洗いきれいにしたりすることができます。しかし

心の中はどうでしょう。大人でも子どもでも、人には心の中まできれいにすることはできません。イエスさまが私やあなたの心の中の悪い思いを、せっけんではなく、ご自分の血によって洗い、きよめてくださるのです。私たちにはお父さんやお母さんにも、いや友だちにもいえない悪い思いがあります。私たちは叱られたり、嫌われたりすることがいやなのです。

しかしイエスさまは私たちの悪い心をきよくしたいと強く願い、十字架で血を流されたほどに私やあなたのことを心配し、思ってくれました。イエスさまはあなたの心の悪い思いをゆるし、雪のようにきれいにしてください。このイエスさまを知っていますか、イエスさまを受け入れていますか、信じていますか。イエスさまを信じていきましょう。

このようにイエスさまは私たちの心の悪い思いのすべてをきよめ、ゆるしてくださるからこそ、私たちが怒られたり、嫌われたりすることを心配しないで、素直に、大胆に神さまに近づき、祈ることができるのです。



◆お祈り

「私の心の中の悪い思いをきれいにし、ゆるしてください。これからもイエスさまを信じて、どんなことでも神さまに祈っていきます」。

(支援教師 加茂政幸)

2月21日

テーマ：目に見えないものを確信させる信仰

聖書箇所：ヘブル人への手紙11章1節

◆今日のみことば

信仰は望んでいる事からを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

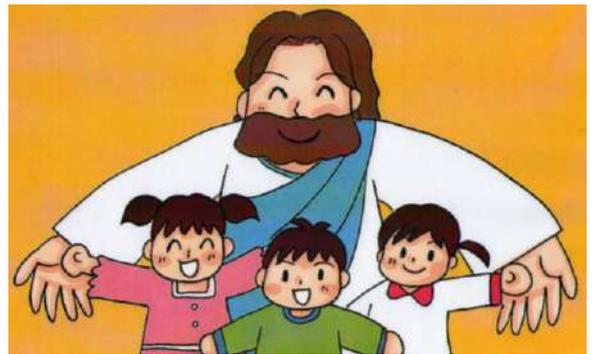
ヘブル人への手紙11章1節

◆メッセージ

私たちは神さまによって造られました。ですから、神さまを信じるのが、あたりまえなのです。しかし、私たちの世界には、神さまを信じられない人がたくさんいます。とても残念なことです。神さまを信じられない人は、「目に見えないものは信じられない」と思い込んでいたり、「神さまなんていないよ」と決めつけています。目に見えないものは、存在しないでしょうか？このように言う人は正しいでしょうか？答えは正しくありません。次のようなしつかりとした理由もありますがあるからです。

私たちの身の回りには、目に見えないけれども「存在」しているものがあります。例えば「空気」。これは目には見えませんが、空気がないと私たちは生きていけません。他にも、テレビのリモコン、携帯電話、スマートフォンなどの電波を飛ばすものがあります。これらの電波は目には見えませんが、電気で作った合図を出して、つながっているのです。このように目には見えなくても存在しているものは世の中にあるのです。目に見えなくても、神さまはおられ、私たちにみことばを与えてくださり、神さまの存在を教えてください。「神さまが世界を造ったよ。あなたのことも造って愛して下さっているよ。イエスさまを救い主として与えて下さったよ。イエスさまを信じる人に永遠のいのちを与えて下さるよ。イエスさまがいつも一緒にいてくださるよ」。

このように「神さまはいない」と言ったとしても、神さまは存在する事には変わりありません。そして、イエスさまがいつも私たちと一緒にいるということ信じられると、神さまから元気をもらえます。目には見えなくても、「イエスさまと一緒にいる」ということを信じる人には、神さまが大きな力を与えてくださるのです。目に見えない神さまを信じると、難しく思える聖書のことばも分かるようになってきます。そしてイエスさまにどんどん喜ばれる人となっていくのです。



イエスさまに喜ばれようとする時、時には「大変だなあ」と思うことがあるかもしれません。たまにあります。でも、大丈夫です。神さまは、私たちが成長させるために厳しくする時があるのです。しかし、神さまは私たちを見捨てようとしているわけではありません。また、私たち自身がイエスさまとの関係を悪くしてしまうことはありますが、神さまはいつも私たちとの関係を良くしたいと願ってくださり、私たちが神さまのもとから離れないようにと導いてくださいます。ですから、どんな時も神さまのみことばを信じいきましょう。思い出してみてください。愛である神さまはいつも私たちと一緒にいるのです。

◆お祈り

「イエスさまは私たちの目には見えなくても、私たちのために、いつも祝福と恵みを注いでくださりありがとうございます。私たちもイエスさまのように歩めますように、元気を与えてください。

(下北沢聖書教会伝道師 吉村恵理也)

2月22日 テーマ:「<sup>しんこう</sup>信仰がなくては<sup>かみ</sup>神に<sup>よろこ</sup>喜ばれない」

聖書箇所: <sup>びと</sup>ヘブル人への<sup>てがみ</sup>手紙<sup>しょう</sup>11章<sup>せつ</sup>6節

◆今日のみことば

<sup>しんこう</sup>信仰がなくては、<sup>かみ</sup>神に<sup>よろこ</sup>喜ばれることはできません。<sup>かみ</sup>神に<sup>ちか</sup>近づく者は、<sup>かみ</sup>神がおられることと、<sup>かみ</sup>神を<sup>もと</sup>求める者には<sup>むく</sup>報いて<sup>かた</sup>くださる方であることを、<sup>しん</sup>信じなければならぬのです。  
ヘブル人への手紙 11章 6節

◆メッセージ

私たちは教会で「信仰」という言葉をよく聞きますが、信仰とはなんでしょう。(子どもたちに言ってもらいましょう。)このヘブル人への手紙11章は、信仰がどのようなものを色々な角度から教えている箇所です。

今日の箇所は5節から続けて読むときに、私たちに信仰のひとつのこと側面を教えてください。エノクさんは旧約聖書に出てくる人。驚くことに、エノクさんは生きたまま神さまのもとに行った人です。それは5節に書いてあるように、神さまがエノクさんになされたことです。



では、なぜそうしたのでしょ。それはエノクさんが、神さまに喜ばれる人だったからだ、と5節は言っています。では、なぜエノクさんは神さまに喜ばれていたのでしょうか。それが今日の6節の内容です。「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません」。つまり、エノクさんはこの信仰を持っていたので、神さまは喜んだのです。では、エノクさんの信仰とはどんなものだったのでしょうか。6節の後半はそれを説明しています。神に近づくもの、つまりエノクさんや私たちのように神さまを愛して一緒に生きていこうとする者は、神さまがおられることと、神さまに信頼して求める時、神さまが答えてくださることを信じる必要があると聖書は言っています。この信仰を持っていたエノクさんは、神さまに喜ばれ、神さまのもとに普通とは違うやり方であげられたのです。

11章には、実際に信仰を持って生きた人の話しがたくさん記されています。信仰とは単なる頭の中の出来事ではありません。神さまがおられることを信じること。そして神さまが祈り求める者に答えてくださると信じることは、私たちの生活と人生を実際に変えて行きます。今日も私たちの生活がこの信仰に導かれるものであるように祈りましょう。



◆お祈り

「神さま 今日私たちが あなたがおられること そしてあなたが答えてくださることを信じて歩めますように。」

(東北宣教プロジェクト 齋藤満)

2月23日

テーマ：地上では旅人

聖書箇所：ヘブル人への手紙11章13節

◆今日のみことば

これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。

ヘブル人への手紙11章13節

◆メッセージ



夏のキャンプは、とっても楽しかったな！テントを張って、お友だちと一緒に泊りして、バーベキューをしたり、川でお魚をとったりして…。でも、キャンプが終わると自分のおうちに帰りますね。テントは、本当のおうちではありません。本当のおうちが一番安心です。

創世記に出てくるアブラハムさんたちのおうちは、天幕(テント)でした。私たちのキャンプとちがい、今日も明日もずーっとテントの生活でした。だから楽しいことばかりではありませんでした。テントをたたんで、移動するときはたくさん歩いて、足が棒のようになって、痛くて泣きたいようなこともありました。大雨がふって大変なときもありました。だけど頑張ることができました。アブラハムさんたちは、神さまの用意してくださっている、もっとすばらしい天国のおうちがあることを信じていたからです。だから、つらいことや苦しいことがあっても、喜んで、希望をもって進むことができたのです。

私たちはどうでしょうか。イエスさまを信じている人たちが帰るおうちは、どこにあると思いますか？「はいっ、天国です！」「正解です！」イエスさまが用意してくださっているおうちが天国にあります。そこが私たちのゴールです。私も僕も、だれでもイエスさまを救い主と信じている人は入ることができます。これは夢ではなく、神さまの約束ですからその通りになるのです。安心して、ずっと住むことができます。聖書に名前が出てくる多くの人たちは、神さま

の約束を疑わないで信じていました。私も僕も、神さまの約束を疑わないで信じて歩いていきましょう。



◆お祈り

「私たちもアブラハムさんたちのように、神さまの約束を信じて、天国のおうちを目標として歩いて行くことができますように。アーメン」

(支援教師 越川壽允)

2月24日

テーマ：「<sup>ほんとう</sup>「<sup>こきょう</sup>本当の故郷」

聖書箇所：ヘブル人への手紙<sup>ひと</sup>11章<sup>てがみ</sup>13節<sup>しょう</sup>～16節<sup>せつ</sup>

◆<sup>きょう</sup>今日のみことば

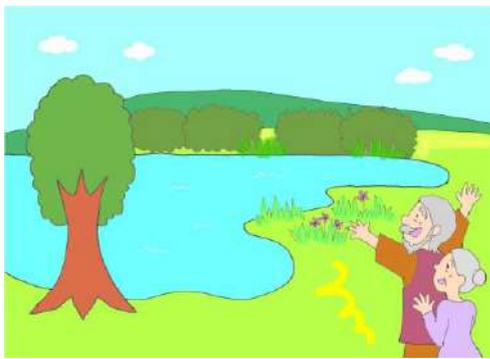
しかし、<sup>じじつ</sup>事実、<sup>かれ</sup>彼らは、さらにすぐれた<sup>こきょう</sup>故郷、すなわち<sup>てん</sup>天の<sup>こきょう</sup>故郷にあこがれていたのです。  
 それゆえ、<sup>かみ</sup>神は<sup>かれ</sup>彼らの<sup>かみ</sup>神と呼ばれることを<sup>はじ</sup>恥と<sup>な</sup>なさいませんでした。事実、<sup>じじつ</sup>神は<sup>かれ</sup>彼らのため  
 に<sup>みやこ</sup>都を用意しておられました。ヘブル人への手紙11章16節

◆メッセージ

<sup>ふるさと</sup>故郷（<sup>ふるさと</sup>古里）<sup>うた</sup>っていう歌、<sup>き</sup>聞いたことありますか。（<sup>し</sup>知っている方、<sup>うた</sup>歌ってください）

♪ <sup>うさぎお</sup>兎追いし <sup>やま</sup>かの山 <sup>こぶなつ</sup>小鮒釣りし <sup>かわ</sup>かの川 <sup>ゆめ</sup>夢は今もめぐり  
 て <sup>わす</sup>忘れがたき<sup>ふるさと</sup>ふるさと

<sup>ふるさと</sup>ふるさと＝<sup>こきょう</sup>故郷は、<sup>う</sup>生まれ育った<sup>そだ</sup>ところです。<sup>おも</sup>思い出が<sup>で</sup>いっぱい  
 いで、<sup>けつ</sup>決して<sup>わす</sup>忘れられない<sup>いま</sup>ところ。今は、<sup>はな</sup>離れて<sup>おも</sup>いますが、<sup>だ</sup>思  
 い出すと、<sup>うれ</sup>なつかしくて、<sup>はや</sup>嬉しくな<sup>かえ</sup>って、<sup>きも</sup>早く<sup>おも</sup>帰りたい<sup>ちじょう</sup>気持ちで<sup>こきょう</sup>いっぱいになる<sup>こきょう</sup>ところ  
 です。でも、<sup>い</sup>どんなにな<sup>おも</sup>つかしく、<sup>ちじょう</sup>ずっと<sup>こきょう</sup>居たい<sup>こきょう</sup>と思<sup>こきょう</sup>っても、<sup>こきょう</sup>地上の<sup>こきょう</sup>故郷に  
<sup>ちじょう</sup>いつまでも<sup>こきょう</sup>いることは<sup>こきょう</sup>できません。  
<sup>こきょう</sup>地上の<sup>こきょう</sup>故郷は<sup>し</sup>変わ<sup>わか</sup>って<sup>わか</sup>しまいます。死<sup>わか</sup>という<sup>わか</sup>別<sup>わか</sup>れも<sup>わか</sup>あります。



<sup>かみ</sup>神さまは、「<sup>てんごく</sup>天国は、<sup>てん</sup>天の<sup>こきょう</sup>故郷ですよ。」と<sup>おし</sup>教えて<sup>おし</sup>くださ<sup>いっかい</sup>っています。え？<sup>い</sup>まだ<sup>い</sup>一回も<sup>い</sup>行<sup>い</sup>ったこ  
 とが<sup>こきょう</sup>ないのに、<sup>こきょう</sup>故郷？<sup>いのち</sup>私たちの<sup>みなもと</sup>命の<sup>かみ</sup>源<sup>かみ</sup>であられる<sup>こきょう</sup>神さまが<sup>こきょう</sup>おられる<sup>こきょう</sup>ところ  
 ですから、<sup>こきょう</sup>故郷です。  
<sup>じゅうじか</sup>イエスさまの<sup>み</sup>十字架の<sup>つみ</sup>身代わりにより、<sup>あた</sup>罪が<sup>いのち</sup>ゆるされ、<sup>いのち</sup>新しい<sup>いのち</sup>命を<sup>い</sup>いただき  
 ました。その<sup>い</sup>イエス  
 さまが<sup>い</sup>私たちの<sup>い</sup>居場所<sup>い</sup>を用意して、<sup>ま</sup>待<sup>てん</sup>っていて<sup>こきょう</sup>くださいます。天の<sup>か</sup>故郷は、<sup>か</sup>変わ  
 ることが<sup>し</sup>ありませ  
 せん。死<sup>かみ</sup>も<sup>むか</sup>ありませ<sup>かみ</sup>せん。ず<sup>かみ</sup>っと<sup>かみ</sup>いる<sup>かみ</sup>ことができ<sup>かみ</sup>ます。神<sup>かみ</sup>さまが、<sup>かみ</sup>私<sup>かみ</sup>たち  
 を<sup>かみ</sup>迎<sup>かみ</sup>えて<sup>かみ</sup>くださ<sup>かみ</sup>います。神<sup>かみ</sup>さ  
 まと<sup>かみ</sup>イエス<sup>かみ</sup>さまと<sup>かみ</sup>ず<sup>かみ</sup>っと、<sup>かみ</sup>いっ<sup>かみ</sup>しょ。ノア<sup>かみ</sup>さん<sup>かみ</sup>も、アブラハム<sup>かみ</sup>さん<sup>かみ</sup>も、モーセ<sup>かみ</sup>さん<sup>かみ</sup>も、サムエル<sup>かみ</sup>さ  
 さん<sup>かみ</sup>も<sup>かみ</sup>います。パウロ<sup>かみ</sup>さん<sup>かみ</sup>にも<sup>かみ</sup>会<sup>かみ</sup>えます<sup>かみ</sup>ね。<sup>あ</sup>旧約・<sup>あ</sup>新約<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>信仰<sup>あ</sup>者<sup>あ</sup>たち  
 ち、<sup>あ</sup>既に<sup>あ</sup>召<sup>あ</sup>された<sup>あ</sup>兄<sup>あ</sup>弟<sup>あ</sup>姉<sup>あ</sup>妹<sup>あ</sup>たち、<sup>あ</sup>だれ<sup>あ</sup>と<sup>あ</sup>話<sup>あ</sup>した<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>かな。<sup>あ</sup>一<sup>あ</sup>回<sup>あ</sup>も<sup>あ</sup>行<sup>あ</sup>っ  
 た<sup>あ</sup>こと<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>なく<sup>あ</sup>ても、<sup>あ</sup>おも<sup>あ</sup>う<sup>あ</sup>か<sup>あ</sup>べると<sup>あ</sup>うれ<sup>あ</sup>しく<sup>あ</sup>な<sup>あ</sup>って、<sup>あ</sup>はや<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>き  
 たい<sup>あ</sup>気<sup>あ</sup>持<sup>あ</sup>ち<sup>あ</sup>にな<sup>あ</sup>ります<sup>あ</sup>ね。



<sup>い</sup>生<sup>い</sup>きて<sup>い</sup>いる<sup>い</sup>今<sup>い</sup>が<sup>い</sup>す<sup>い</sup>べて<sup>い</sup>では<sup>い</sup>あり<sup>い</sup>ませ<sup>い</sup>ん。「<sup>てん</sup>天の<sup>こきょう</sup>故郷<sup>たの</sup>」を<sup>い</sup>楽<sup>い</sup>し<sup>い</sup>みに、

<sup>かみ</sup>神<sup>あお</sup>さまを<sup>きょう</sup>仰<sup>ちから</sup>いで、<sup>い</sup>今日<sup>い</sup>も<sup>い</sup>力<sup>い</sup>い<sup>い</sup>っぱい<sup>い</sup>生<sup>い</sup>き<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>し<sup>い</sup>ょう。

◆お祈り

「<sup>かみ</sup>神<sup>ようい</sup>さまの<sup>てん</sup>用意<sup>こきょう</sup>してく<sup>たの</sup>ださる<sup>たの</sup>天<sup>たの</sup>の<sup>たの</sup>故郷<sup>たの</sup>を<sup>たの</sup>楽<sup>たの</sup>し<sup>たの</sup>みに<sup>たの</sup>して<sup>たの</sup>います。イエス<sup>じゅうじか</sup>さまの<sup>じゅうじか</sup>十字架<sup>じゅうじか</sup>の<sup>じゅうじか</sup>ゆえ<sup>じゅうじか</sup>に、私<sup>じゅうじか</sup>も<sup>じゅうじか</sup>迎<sup>じゅうじか</sup>えて<sup>じゅうじか</sup>くださ<sup>じゅうじか</sup>る<sup>じゅうじか</sup>こと<sup>じゅうじか</sup>を<sup>じゅうじか</sup>感<sup>じゅうじか</sup>謝<sup>じゅうじか</sup>し<sup>じゅうじか</sup>ます。」

(習志野台キリスト教会牧師 丸山園子)

2月25日

テーマ：キリストから目を離さないで

聖書箇所：ヘブル人への手紙12章2節

◆今日のみことば

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜

びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

ヘブル人への手紙12章2節

◆メッセージ

あなたは50メートル走を走る時、どこを見て走りますか。自分の足もとでしょうか。周りの人たちでしょうか。…そうです、ゴールですね。

ゴールをしっかりと見ていないと、まちがった道へ行ったりしてしまいます。それと同じように、イエスさまから目を離さないでいることが大切です。



イエスさまは神の子なのに、私たちと同じ人間となってくださいました。そして私たちの罪をゆるすために十字架にかかって死んでくださり、死からよみがえられました。今、天の父なる神さまの右にすわって、私たちのために祈ってくださいます。それで、私たちがイエスさまを信じる時、私たちも神さまのもとへ行くことができる道が用意されたのです。イエスさまは私たちが罪から救われるために、周りの人たちからののしられたり、唾を吐きかけられたりしたのですが、喜んでそれらを耐えてくださったのです。

私たちも、お友だちからイヤなことを言われたり、ひどいことをされたりしたことはありませんか。そんなときもイエスさまは、だれよりも私たちの心を知っていらっしゃいます。そして、私たちのために祈ってくださいます。

また病気になった時や、ひとりである時に、死ぬことがこわくなったことはありませんか。イエスさまは、「ひとりではないよ。わたしはあなたの側にいるよ。」と語ってくださいます。そして、天国に私たちの場所を用意してくださいます。

イエスさまこそ、私たちを導いてくださる方です。イエスさまを見れば、信仰をもって歩み続けることができます。今日も、イエスさまにしっかりと目を向けていきましょう。

◆お祈り

「イエスさま、どんな時でも、私たちを導き、守ってください。そして私たちがどんな時も、イエスさまを信じていけますようにお守りください。」

(支援教師 児玉 幸)

イエスさま



## 2月26日 テーマ：試練に勝つ人となる

聖書箇所：ヤコブの手紙1章1～4節

### ◆今日のみことば

その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。

ヤコブの手紙1章4節

### ◆メッセージ

私たちがいつも元気いっぱい、楽しいことばかりだったらいいですね。でも、残念ながら辛いことや悲しいこともたくさんあります。

病気になったり、大切なものをなくしたり、突然ケガをしたり、大好きな人と離ればなれになることもあるかもしれません。お友達からいじめられたり、お父さんやお母さんや学校の先生から叱られたり、自分は何も悪いことをしていないのに、時々嫌な思いをすることがあります。イエスさまは私のことを大事だと言ってくださったのに…それは嘘だったのかな？と疑ってしまうこともあると思います。そんな時、みなさんはどうしますか？ 泣いたり、文句を言ったり、人のせいにしたりしていませんか？



神さまは、私たちがそのような苦しみに会う時には、どうしなさいと言っているのでしょうか？ なんと苦しいときには「喜びなさい」と言っています（1：2）。ちょっとびっくりですね。でも、それにはちゃんと理由があるのです。それはその苦しみを通して、私たちが良い時にも悪いときにも神さまを信じる人に、そしてもっともっと神さまを愛する人になれるからです。苦しいときに喜ぶことは、とても素晴らしいことです。そうすれば私たちはなにがあっても幸せです。

でも、苦しい時に喜ぶことはちょっと難しいですね。だからイエスさまに助けをもらいましょう。イエスさまは神さまですから、私たちに助けをください。助けを信じ祈りながら待つと、あら不思議・私たちの心は平安になり、神さまから愛されている喜びでいっぱいになります。

このように苦しいときに神さまの助けを信じ待つことを、ちょっと難しい言葉ですが、「忍耐」と言います。苦しみが来た時には、ぜひこの「忍耐」をためしてみてください。うまくいかなくても大丈夫。何度失敗しても大丈夫です。くりかえし、くりかえししているうちに、神さまが苦しみに負けない強い心に育ててくださいます。私たちは、忍耐しながら、成長していくことができます。そして、完全な者になることができます。完全！ですよ。楽しみですね。イエスさまの助けを信じて、祈りながら待ちましょう。



### ◆お祈り

イエスさま、苦しい時に喜ぶことができるように助けをください。その苦しみに負けない強い心を与えてください。

(新発田キリスト教会伝道師 田中敬子)

2月27日

テーマ：疑うたがわずにお祈いのりしましょう

聖書箇所：ヤコブの手紙てがみ 1章5～8節しょう

◆今日のみことば

ただし、少しも疑うたがわずに、信しんじて願ねがいなさい。疑うたがう人は、風かぜに吹ふかれて揺ゆれ動うごく、  
海うみの大波おおなみのようです。 ヤコブの手紙てがみ 1章6節しょう

◆メッセージ

信仰生活しんこうせいかつは素晴らしいです。でも何か辛ないこと悲つらしいことなどが起おきて、どうしたらよいいのか分わからない時ときもあります。

今日のみことばは、そのような時には神かみさまに、みこころを知るための知恵ちえを与あたえてください、とお願ねがいするように働すすめています。そうすれば、神かみさまは求もとめる人ひとに豊ゆたかに知恵ちえを与あたえてくださるお方かたですから、お祈いのりに応こたえて知恵ちえを与あたえてくださるからです。感謝かんしゃなことです。

お祈いのりする時ときの大切たいせつな点てんも書かかれています。それは、疑うたがわないでお祈いのりするということです。神かみさまはお祈いのりに応こたえてくださるかもしれないし、応こたえてくださらないかもしれないと心こころの中で疑ない、海うたがの大きな波うみのように心こころが揺ゆれ動うごくことを、神かみさまは喜よろこばれません。疑うたがわずにお祈いのりしましょう。神かみさまは必要ひつような知恵ちえを与あたえてくださいますから。

私たちがお祈いのりすることを、神かみさまは喜よろこんでくださいます。辛つらい時ときや悲かなしい時ときだけではなく、どのような時ときでも、お祈いのりすることを望のぞんでおられます。楽たのしい時ときも辛つらい時ときも、お祈いのりを通して神かみさまのみこころを求もとめましょう。

この手紙てがみを書かいたといわれているヤコブさんは、お祈いのりをとて大切にしていたそうです。よく膝ひざまずいて長ながい時間じかんお祈いのりしていたので、ヤコブさんの膝ひざはラクダの膝ひざのようになっていたと言いわれています。どのようなことについてもお祈いのりして、神かみさまからの知恵ちえを求もとめて、生活せいかつしておられたのでしょね。

私たちもお祈いのりを大切たいせつにしましょう。楽たのしい時ときも辛つらい時ときも疑うたがわずに、お祈いのりしましょう。

◆お祈り

「神かみさま、私たちがお祈いのりを聞きいてくださることを感謝かんしゃします。これからも疑うたがうことなくお祈いのりをする事ができますようにお守まもりください。」

(支援教師 中村孝)



2月28日

テーマ：すべてが主のもの

聖書箇所：ヤコブの手紙1章9節～11節

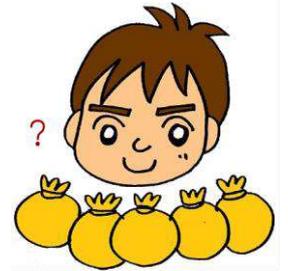
◆今日のみことば

富んでいる人は、自分が低くされることに誇りを持ちなさい。なぜなら、富んでいる人は、草の花のように過ぎ去って行くからです。

ヤコブの手紙1章10節

◆メッセージ

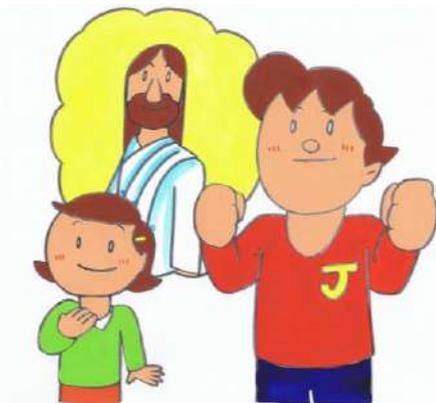
ある子ども会で、聞いてみました。「皆さんはどんな大人になりたいと思いますか。」ある子が答えました。「お金持ち！」。どうしてと聞きますと、「何でも買えるから！」と言っていました。お金があるといいですねえ、でも、本当に、お金があれば何でも買えるのでしょうか、そうではないですよ。



今日の箇所には、「貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい。」(9節)と書かれています。この言葉は、貧しくて、力がなくて、弱い人がイエスさまだけを信じて、頼っている時、神の子どもとされ、神さまが支えてくださることを言っています。逆に「富んでいる人は、自分が低くされることに誇りを持ちなさい。」と書かれています。なぜなら、お金をいくら持っていたとしても、自分を罪から救うことは出来ないからです。罪のゆるしは、お金では買えません。自分の命を買うこともできません。お金があつてたくさんの物を持っていると自慢していても、死ぬ時には役に立ちません。美しい草の花がやがては枯れていってしまうのと同じようになるのです。お金だけでなく、知識、健康などすべてのものは神さまが与えてくださったものとして感謝し、自

分を低くすることが大切なのです。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉があります。稲の穂は実がなればなるほど重くなり、しなっていくのです。私たちは大人になっていくほど知識も得ますし、立場やお金も得るかもしれませんが、それを自分の誇りとして自分を高くするのではなく、すべては神さまが与えてくださったものとして感謝をささげ、主に栄光をお帰ししましょう。



◆お祈り

「神さま。毎日、たくさんの恵みをありがとうございます。私たちが、あなたに与えられたものによって自分を高くすることがなく、あなたの御名をあがめるものとして自分を低くすることができるようにしてください。」

(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)